



総合診療部からのメッセージ

東京でも必要性が増す総合診療医

病気を臓器別に分けて診るのではなく、臓器を統合し、患者さんの背景因子も含めて一人の「病める人」として診断・治療する総合診療医の需要は全国的に増加しています。

特に高齢者は多臓器に疾患を有していることが多く、人生観、置かれている環境も様々で、それを考慮して診断・治療してゆくことが大切です。高齢化は全国的な問題で、東京でも今後更に進むため、総合診療医の需要は増大してゆくでしょう。欧米諸国では医師の30%が総合診療医であり、わが国でも総合診療医を増やすことが急務で、新専門医制度でも基本領域の一つに加えられました。

慈恵医大では、様々な規模の病院と診療所、都内と地方、離島と異なった環境での総合診療を経験することで、幅広いニーズに対応できる総合診療医を育ててゆきます。また、小児医療、ER型救急医療、在宅医療の技術も十分に経験でき、更に臨床研究の手法を学べる機会も用意しています。総合診療専門医習得後のキャリアとして、大学病院、市中病院、診療所、研究職と幅広い選択肢が用意されています。また、結婚、出産、育児といったライフイベントがあっても復帰しやすい診療科であると思います。伝統ある東京の慈恵医大と一緒に総合診療をやってゆきましょう。

総合診療部 診療部長 大野 岩男

総合診療研修センター センター長 平本 淳